

サロンのご案内 「海外のアーバンフォレスト戦略と街路樹マネジメント」

NPO 法人国際造園研究センター理事長 繁村誠人

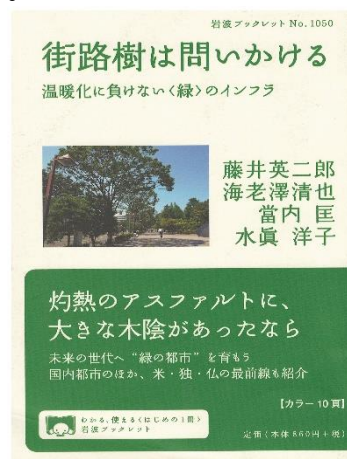
身近なグリーンインフラと言えば街路樹だが、近年では寸胴仕立てに見るよう悲惨だ。管理者の言い分はわかる。山陰では除雪の邪魔、落ち葉清掃が大変、と言うことで街路樹は幹線道路から避けられ、間抜けた都市景観を呈すが、豪雪地帯では歯牙にもかけられない。

とは言え、わが国では東京駅前の行幸通り、神宮の絵画館前通り、御堂筋のイチヨウ並木は人々を魅了する。そこには稀有の管理技術がある。そして、樹木本来の姿を生かした生態管理もあろう。このバランスが、道路環境に応じた管理があるはずだ。

ここにもK字型社会が形成されつつあるが、わが国が先進国を名乗るのであれば「**樹芸と道路景観の調和**」を標榜しなければならない。アメリカポートランドを訪れると天蓋の緑が迎えてくれた。俗にいう無剪定方式だが、建物が見えないくらい木々が繁茂する。

こうした管理はかつて神戸市で試みられたが、今日ではあまり聞かない。それよりも冬場に、切り詰めたプラタナスが冬空に浮かぶ樹形が空しく、年々増えているのではないか。ここに、土木屋の強引・効率優先の台頭を見て、造園家の非力さを痛感する。ここには管理費用の縮減・コストカット優先の指定管理者制度の普及があり、造園が貶められている。

アメリカルイジアナ州立大学 MLA で学ばれた當内講師は、日本造園建設業協会国際委員会などの活動の傍ら、アメリカやドイツの街路樹マネジメント手法の調査を行い、今年「街路樹は問いかける」を共著された。気候変動やヒートアイランドの抑制のため、海外の都市緑化において今街路樹が非常に注目され、植栽基盤や剪定、樹木保護制度など、緻密に計画管理され始めている。状況が悪化する日本とは全く逆の状況である。それを講話頂き、改めて日本の街路樹のあり方を考える機会にしたいと思います。皆様方のご出席をお待ちしています。



社会に問いかける乾坤一擲の一冊

講師: 當内 匡 (株)庭樹園代表取締役 樹木医 街路樹剪定士指導員

(一社)日本造園建設業協会国際委員会副委員長 (一社)街路樹診断協会関西支部長

日時:令和3年1月21日(金) 18時~20時 費用:500円

場所:NPO法人国際造園研究センター 大阪市中央区大手通1-4-2 ワイズ谷町ビル202号

TEL 06-6942-1951

申し込み:メール kslsrs02@gmail.com FAX06-6948-5282

お名前、ご所属、携帯番号をご記入ください

問い合わせ:中橋迄 080-4269-2813 mail:kenbun.n0913@gmail.com